

バッハ盤を聴く(1)(HP 収載)
—最新アナログシステムでの試聴(1)—

1. 始めに

[LINN LP-12 の再構成\(35\)](#)および[ThorensTD124 の再構成\(1\)](#)で報告しましたようにこれらのアナログシステムの大幅な変更を行いましたので、この機会にバッハのアナログ盤を聴き直してみることにしました。

2. バッハのアナログ盤の試聴方法

試聴システムは、LINN LP-12 の再構成(35)および ThorensTD124 の再構成(1)で報告したとおりであり、バッハのアナログ盤をレーベル毎、録音年代毎に整理して、LINN LP-12 と ThorensTD124 のいずれか、または両方で聴いていきます。その後、さらにアンチスタティックの効果(1)とアンチスタティックの効果(2)で報告したようにレコードアンティスタティックも加わっています。

今回は、次の1970年代後半以降の新興レーベルを ThorensTD124 で聴いていきます。なお、J.S.バッハ以外の作品は記載していません。続報でも同様です。

ACCENT OX-1225-AG

J.S.バッハ フルート、ヴァイオリン、通奏低音のためのトリオソナタ

ト長調 BWV525

クイケンアンサンブル

ACCENT KKC115/6

J.S.バッハ 管弦楽組曲全曲

ジギスバルト・クイケン指揮ラ・プティット・バンド

CALIOPE VIC 2186-88

J.S.バッハ 無伴奏チェロ組曲 BWV1007

アンドレ・ナヴァラ (チェロ)

3. バッハのアナログ盤の試聴結果

ACCENT レーベルのイコライザー特性は、ZANDEN のリストにもありませんので、一から聴いていきます。

フルート、ヴァイオリン、通奏低音のためのトリオソナタト長調は、1982年の録音で、RIAA、N、第4時定数 High で聴き始めましたが、特に違和感はありません。位相反転を行いますと、バルトルド・クイケンのフルート・トラヴェスソもジギスバルト・クイケンのヴァイオリンも焦点がぼやけます。イコライザーカーブを TELDEC、

EMI、Columbia、DECCA と替えてみましたが、どこかに強調感が出て、自然ではありません。第 4 時定数も敢えて変える必要はなさそうです。

管弦楽組曲は、2012 年録音なので、RIAA、N、第 4 時定数 High で聴き始めましたが、何の問題もありません。

これら ACCENT レーベルの盤は、ThorensTD124 の再構成(1)で報告したカートリッジの変更その他の条件設定、およびレコードアンチスタティックの導入が功を奏して、繊細な表現が可能になっています。

CALIOPE レーベルのイコライザー特性は、ZANDEN のリストでは、フランスプレスの RIAA、R、第 4 時定数 Mid と国内プレスの EMI、R、第 4 時定数 Low の二つがありますので、これらの条件で聴き比べていきます。

CALIOPE レーベルの無伴奏チェロ組曲は、RIAA、R、第 4 時定数 Mid で違和感はありませんが、EMI、R、第 4 時定数 Low にしますと、チェロの響きが過剰になります。ナヴァラの演奏は、この曲としては珍しく、軽やかでテンポの良い演奏です。

4. まとめ

ThorensTD124 の再構成(1)とアンチスタティックの効果(2)の結果をトレースでき、ACCENT レーベルおよび CALIOPE レーベルのイコライザー特性が特定できました。

以上